

南知多中学校再編委員会から

「再編だより」より抜粋

《統合中学校開校時（令和5年度当初）に設置される部活動》

男女：野球、サッカー、吹奏楽、美術

男子：バレーボール、卓球

女子：バスケットボール、バレーボール、卓球

今後の生徒数の減少などを踏まえ、豊浜中の柔道部、師崎中の剣道部については、令和4年度より新しい部員を募集しません。しかし、現在の部員は令和5年度の夏の大会までは活動を継続できます。

《令和4年度夏以降の所属・活動について》

基本的には合同チーム（統合を見据えた部活動）で活動を行います。長期休業中や2、3学期の休日の活動は、各部の実情に応じ、合同での活動や単独での活動を行います。2、3学期の平日は、学校間の移動はせず自校にある部活動で活動します。

《その他》

部活動を指導する顧問教職員の意見が紹介されました。持続可能な部活動の在り方を、学校だけでなく、地域全体で考えていく必要があります。また、原案をもとにした児童生徒アンケート（現小6、中1 対象、合同チームを含めた所属希望）の結果も紹介されました。

なお、篠島中学校については、現在の部活動での人員不足が懸念されるため、合同チームへの合流は見合わせるものとします。

南知多町も部活動の

あり方の見直しを！

- 部活動は大会があるから実施するのでなく、自主的、自発的に音楽文化・運動文化を楽しむためにあるもの。
- 生徒たち全員参加を前提にしたような部活動になっていないか。部活動は強制のものではない。部活動に参加しない自由、例えば、放課後、ピアノや塾、自分の興味、関心のもとに活動をしたい生徒の選択も保障する。
- 生徒の活動を保障し、教職員の負担軽減のために、地域のスポーツ・文化活動を実施する環境を整備する。
- 教師全員での指導者参加を強制する部活動になっていないか。教員のアンケートなどにあつた意見に誠実な対応をし、行政として教員の働き方改革の視点を入れた部活指導方針を。
- 文科省の部活動の改革方針を取り入れた委員会での話し合いを。

文科省の部活動改革方針

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革 概要



部活動の意義と課題

- ✓ 部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場である。
- ✓ 一方、これまで部活動は教師による献身的な勤務の下で成り立ってきたが、休日を含め、長時間勤務の要因であることや、指導経験のない教師にとって多大な負担であるとともに、生徒にとっては望ましい指導を受けられない場合が生じる。
- ✓ 中教審答申や給特法の国会審議において「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」旨が指摘されている。

持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要

改革の方向性

- ◆ 部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築
- ◆ 部活動の指導を希望する教師は、引き続き休日に指導を行うことができる仕組みを構築
- ◆ 生徒の活動機会を確保するため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備

具体的な方策

I. 休日の部活動の段階的な地域移行（令和5年度以降、段階的に実施）

- 休日の指導や大会への引率を担う地域人材の確保
（育成・マッチングまでの民間人材の活用の仕組みの構築、兼職兼業の仕組みの活用）
- 保護者による費用負担、地方自治体による減免措置等と国による支援
- 拠点校（地域）における実践研究の推進とその成果の全国展開

II. 合理的で効率的な部活動の推進

- 地域の実情を踏まえ、都市・過疎地域における他校との合同部活動の推進
- 地理的制約を越えて、生徒・指導者間のコミュニケーションが可能となるICT活用の推進
- 主に地方大会の在り方の整理（実態の把握、参加する大会の精選、大会参加資格の弾力化等）

※ 以上の取組は、主として中学校を対象とし、高等学校においても同様の考え方を基に取組を実施。
※ 私立学校は、以上に示した公立学校の取組を参考に、教師の負担軽減を考慮した適切な指導体制の構築に取り組むことが望ましい。